

本はイギリスの大学から学ぶものはないのだろうか。また、イギリスの大学は日本のように段々と数が増えてピンからキリまでというふうになり始めているんだけど、本当にそうなっているのだろうか、ということになると、私はまた違う面もあり、それは今後に残るだろうと思います。具体的な例を申しますと、イギリスは今でもどこの大学を出たかということも大事ですが、どういう成績で大学を出たかということが決定的に重要です。卒業式の時に成績付きで名前を呼ばれます。“1等” “2” “2の上” “2の下” “3” それから“等なし” というように。“等なし” というクラスもあるんですね。この“1等” というのはファーストクラスと言いますが、大変重要でして、せいぜい学生全体の1割しかとれません。只、そうすると我々日本人はオックスフォードの1等と名もない大学の1等では違おうと思うんですが、それは確かにそうですが、例えば、そうだとすると各大学の試験は必ず外の大学からの先生を入れてきます。例えば私のやった試験を東大の先生が審査するんですね。この試験の問題でいいか、この採点で甘すぎはしないかという、外部エグザミネーター、外部試験官というんですが、これを維持しています。厳しいとは思いますが、今でも維持しています。それから先程言いましたようにファーストクラスというのは一定の割合以上は付けられません。現実に1割位しか付けられません。それから基本的には少人数教育ですね。もっと言えば能力制でございます。こういったことは日本の教育に対するタブーに対する挑戦みたいなものなんですね。私も大学で能力別にやるべきだと主張しているんですが、葛西さんは長い一

テープEND

第5回定例理事会

開催日時 平成7年11月14日 11:30~12:20

開催場所 三条ロイヤルホテル

出席者 味方義一 堀川正幸 木宮 隆 大野新吉 米山忠俊 梨本清一 平松利朗 山本 充
小林 満 稲田憲治 坂本勝司 オブザーバー佐藤義英 吉川吉彦

協議事項 1、次年度会長エレクト選出の件

次年度会長エレクトに指名委員会より推薦のあった米山忠俊さんを満場一致で承認

2、新会員入会の件

4名の方を新たに承認 本日付けでクラブ全会員に承認依頼を出す。

3、クリスマスパーティー企画案

12月19日 6:30pm点鐘 会場 おゝ乃

会費 会員夫人10,000円 子供3,000円で承認

11月のお祝い:

誕生祝い

稲田憲治さん 10日
佐藤義英さん 18日
坂内康男さん 18日
山本 賢さん 29日

佐藤ミチ子さん 9日
落合千鶴子さん 16日
大竹チエさん 19日
堀川美智子さん 18日
石月恵美子さん 23日

結婚祝い

梨本清一・トア子ご夫妻 3日
柄沢憲治・佑子ご夫妻 3日
山口龍二・ミチご夫妻 7日
金子俊郎・裕子ご夫妻 11日
今井克義・房子ご夫妻 14日
芦田義重・恵登ご夫妻 16日
本間茂男・はま子ご夫妻 18日
目黒宣行・直子ご夫妻 26日

11月21日例会: 会員卓話 山口龍二さん ロータリー情報ワンポイントスピーチ

11月28日例会: 会員卓話 石川勝行さん ロータリー情報ワンポイントスピーチ



三条北ロータリークラブ週報

真心の行動
慈愛の奉仕
平和に挺身

例会日
1995. 11 . 14
累計 No 438
当年 No 18

国際ロータリー会長 ハーバード・G・ブラウン 第2560地区ガバナー 重田政信

会長/味方義一

幹事/木宮 隆

SAA/稲田憲治

例会日/火曜日 12:30~13:30

例会場/三条ロイヤルホテル ☎34-8111 FAX34-8114

事務局/三条市西四日町3-15-34

ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160 FAX33-8972

行事: ロータリー財団委員会主管 外部卓話「最近の大学教育改革について一日英の比較一」 新潟大学法学部教授・ロータリー財団学友会事務局 葛西康徳様

出席: 本日の出席 55名中33名

先々週の出席率 55名中53名 96.36% (前年同期95.45%)

10月の出席状況 会員数55名 例会数4回 平均出席率95.45%

(前年同月92.79%)

先週のメイクアップ: 11月8日 三条RCへ 中條耕二さん 山上茂夫さん 布施 勲さん

樋口金占さん 外山晴一さん 堀川正幸さん 羽賀一夫さん

阿部誠一郎さん 平松利朗さん 吉川吉彦さん 石川勝行さん

佐藤文夫さん

10日 吉田RCへ 高橋彰雄さん 西山 斉さん

11日 藤岡北RC (20) へ 山本 賢さん 梨木建夫さん

13日 三条南RCへ 高橋彰雄さん 外山晴一さん

13日 新潟北RCへ 佐藤啓策さん

ビジター: 新潟RCより 石田瑞穂さん

三条RCより 石橋育於さん 松谷晃吉さん 渡辺喜彦さん 渋谷正一さん

三条南RCより 吉田秀治さん 吉田 衛さん 坂井範夫さん

ゲスト: 新潟大学法学部教授・ロータリー財団学友会事務局 葛西康徳様

会長挨拶: 味田義一

今月はロータリー財団月間であります。

本日の卓話をいただきます。葛西康徳先生は新潟大学法学部教授であり、ロータリー財団、学友会事務局長でいらっしゃいます。地区学友委員会委員山上氏の紹介で本日の卓話をお願い致します。又この例会後開かれますプロバスについての三クラブ合同の研究会においてご教授いただきます、新潟

東ロータリークラブ会長石田端穂様、三条クラブ会長石橋育於様、幹事松谷是吉様、社会奉仕委員長渡辺喜彦様、渋谷正一様、三条南クラブ会長エレクト鈴木武様、幹事吉田衛様、社会奉仕委員長吉田秀治様、ようこそおいで下さいました、ありがとうございます。

重田ガバナーよりご指示されておりますプロバスについて新潟県地区で最初の新潟東ロータリークラブの会長よりお話を聞き、三條にも県に設立可能なものかどうか、研究を致したいと思います。社会奉仕委員会の皆様よろしくお願い致します。

幹 事 報 告： 木宮幹事

・三条市ふるさと運動推進協議会より「第13回ふるさと絵画コンクール」展示案内

日時 平成7年11月22日～24日

会性 三条市体育文化センター

・地区大会参加礼状送付有り

ニコニコボックス：	14日現在累計 510,400円
-----------	------------------

石田端穂君（新潟東RC）JC以来の梨本大先輩のクラブ例会に始めて訪門させていただきました。

石橋育於君（三条RC）いつも味方会長木宮幹事には大変お世話になっております。北クラブさんのますますの発展を願って。

吉田衛君（三条南RC）北クラブさんに初めてメーキャップさせていただきました。本日はよろしくお願いいたします。

松谷晃吉君（三条RC）今年度初めてのメーキャップです。宣敷お願いいたします。

吉田秀治君（三条南RC）しばらく振りにメークに寄せて戴きます。

味方義一君 この夜は大勢の皆様からご出席承りありがとうございます。又、過分なる御祝ぎいたただけ恐縮しております。

山本賢君 遠方より来条、葛西先生ご講話大変ありがとうございます。

梨本清一君 高崎での地区大会では木宮幹事さんはじめ皆様には大変お世話になりました。

梨本清一君 石田新潟東ロータリークラブ会長は新潟プロバスクラブ設立時のリーダーであります。今日三条地区での指導者としてご来条頂きました。ご指導よろしくお願いいたします。

落合益夫君 今週17日金曜日18日土曜日(例)コンピュータシステムにて展示会を行います。今話題のインターネットも見れますのでよろしく。

木宮隆君 葛西先生の卓話楽しみにしております。又本日は新潟東クラブより石田会長様を講師にお迎えし例会終了後プロバスクラブの研修会があります。三条クラブ、南クラブより大勢の皆様メーキャップいただき大変ありがとうございます。

く日本の親は子供の年齢をたずねるときに、“僕、小学校何年生”というききかたをしますね。これはこれで年齢が分かるからなんですが、それは外国人にきいても、意味のない質問ですね。向こうは年齢が問題なんであって、何年生かは問題ではありません。

従って日本の場合の「ものさし」は何が問題になるかといいますと、学歴です。もっと正確にいきますと、どこの大学を卒業したかということになります。…これがまあ、今日の最後の話に結びついていきますが…お話はようやく大学のことになりますが、まあイギリスは良く言えば歴史と伝統に根ざした、悪く言えばセパレートコースにしてですね、隣のコースを走っている人は見えないようにしているシステムなんですね。本当は能力がものすごくあるかもしれない。そのコースを走っている子供をその子供にとってふさわしいと信じて走らせている人達のために、日本のように能力があってもなかなか大学には行けないということがイギリスの場合には起きてきます。それに対してサッチャー政権以降、こういった壁、セパレートコースの壁を一つ一つとりはずしていく作業をやっていきます。よく彼女のことをサッチャー革命と呼ぶ人がいますが、私は本当にそうだと思います。戦争はなかった訳ですが彼女はそれに近いことをやり、また、それ以降も彼女の敷いた路線を元に戻すことはできません。同時にこの高等教育のワクを拡大します。単純に言えば大学の数を増やしたということです。…これを言うと、私は学部長におこられるんですが、新潟大学も戦前は医学部だけだったのですね、戦後は全部大学になりましたけれど…。イギリスもつい最近までそれまで大学と呼ばれていなかった所を大学にしました。従ってつい10年前迄は私がイギリスにいたときは同じ年齢の人の7%しか大学に行けなかったのですが、今やそれは25%とも言われています。従ってもうお分かりのようにイギリスももう大学を出たことが重要なのでなく、どこの大学を出たかということが段々重要になってきて、日本に似てきたことは事実です。

また先程オープンコースのことを申しましたが、大学に関して申せばオックスフォードとケンブリッジという両巨頭がごさいます。これは別格ですね。彼等は自分達だけしか大学でないと思っています。他の大学は大学ではないと思っています。確かにプライドを持ち、それに見合う歴史と伝統に根ざしておりますが、彼らは大学を受ける為のAレベル試験というものを無視して自分達だけ勝手に先に試験をしてしまうんですね「青田刈り」もいいところです。日本で東大に対する批判は大変強いですがけれども東大といえど自分だけ先に試験をやってしまうことはできませんね。それを彼等はやってきました。その様な伝統というか、慣習もここ1～2年で廃止されようとしています。しかし、完全に廃止しは至っていません。また、オックスフォードやケンブリッジは何十ものカレッジから出来ている訳ですがけれどもそのカレッジにもはっきり言ってピンからキリまであるわけです。オックスフォード、ケンブリッジといってもトップカレッジと呼ばれるところと、兎に角、オックスフォードとケンブリッジならどこでも入りたいという連中もいるわけですから。こういうトップカレッジと呼ばれるところは基本的には男子だけでした。それも10年位前から女子には門戸を開きました。教育に関しては男女雇用平等ではありませんが、日本の女子はイギリスに比べてはるかに恵まれていたと思います。

この様にイギリスの場合も大学の中をオープン制にして競争社会にする。同時に大学も増えてまいりますから、これ迄は大学の授業料は学生はタダ、全くお金は要らなかったんですが、サッチャー以降は教育費は自分で負担しろということになりました。これに対しては批判が続出しています。

さて、日本はどうでしょうか。日本はどうもこの逆を、非常に厳しい条件なんですが、行こうとしています。即ち、一回開いたこのオープン制に壁を設けてセパレート型、まあ、これが個性化ということになるんですが、まあ単純に言えば立派なピアニストを育てるためにはピアノばかり練習させなければならないんですね。これに算数もできなきゃいけない。国語もできなきゃいけないなんて言っていたら、それはできない話です。そしてそれに見合う手段として推薦制を入れるとか、こういうことをやっています。それから教育の程度を高度化する。大学院に重視するということを我が大学もやっています。

さて、ちょうど反対の方向を我が国日本は営んでいる訳ですがけれども、最後になりましたが、日